

## 第85回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成29年9月12日(火) 13時30分～15時00分
2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室
3. 出席者  
【学外委員】阿部正、斎藤美幸、清水潔、田原博人、富田孝志、林由美子、深澤秀樹  
【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、小沢喜仁、若井祐次  
朝賀俊彦、鈴木典夫、佐野孝治、二見亮弘

〔オブザーバー〕 副学長：真田哲也、千葉悦子  
監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者  
【学外委員】櫻井泰典、八島洋一、渡邊博美

### 5. 議 事

#### 【報告事項】

- (1) 役員の報酬及び職員の給与水準の公表について
- (2) 平成30年度概算要求額の伝達等について
- (3) 平成28年度における基金の状況について
- (4) 国立大学法人福島大学に求められる学長像について
- (5) 学長選考における経営協議会委員(学外委員)による学長候補適任者の推薦について
- (6) 東日本大震災後に見られる福島大学の県内就職者数の傾向について
- (7) 2017オープンキャンパスについて
- (8) 平成29年度監事監査計画について

議事に先立ち、中井学長から、挨拶があった。

#### 【確認事項】

第84回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

#### 【報告事項】

- (1) 役員の報酬及び職員の給与水準の公表について  
中田理事・副学長から、毎年度総務大臣が定める様式により法人の役職員の給与等の給与水準を公表しているとの発言があり、資料1に基づき、常勤役員の報

酬支給状況、職員の給与水準、人件費の状況等について説明があった。

( 2 ) 平成 3 0 年度概算要求額の伝達等について

若井理事・事務局長から、資料 2 に基づき、文部科学省から伝達があった平成 3 0 年度国立大学法人運営費交付金概算要求額の概要、そのうち本学分の運営費交付金に係る計上額及び施設整備概算要求事業について報告があった。

( 3 ) 平成 2 8 年度における基金の状況について

若井理事・事務局長から、資料 3 に基づき、大学の収入全体における基金の位置付け、主な基金の概要、平成 2 8 年度の収入・支出状況及び事業の実施状況成果について説明があった。

( 4 ) 国立大学法人福島大学に求められる学長像について

富田学長選考会議委員長から、資料 4 に基づき、学長選考会議において「国立大学法人福島大学に求められる学長像」を定めたことについて報告があり、引き続き、学長候補者選考日程（案）について説明があった。

( 5 ) 学長選考における経営協議会委員（学外委員）による学長候補適任者の推薦について

富田学長選考会議委員長から、資料 5 に基づき、福島大学学長選考規則に定める経営協議会学外委員（学長選考会議委員を除く）による学長候補適任者の推薦制度の内容と手続きに関する必要項目等について説明があった。

( 6 ) 東日本大震災後に見られる福島大学の県内就職者数の傾向について

真田副学長から、資料 6 に基づき、東日本大震災前と震災後の福島県内への就職状況の変化について報告があった。また、福島県内出身入学者数と福島県内就職者数及び就職率の関連について説明があった。

( 以下、 はその議題に関する学外委員からの質問・意見、 は大学側の回答等を表す。 )

近年福島県内に就職する比率が県内・県外出身者共に増加傾向にあることは震災後の教育効果が表れているのかもしれないさらに、学類ごとの違いや教育内容の影響など、分析を行うことで、法人評価において数値を挙げて成果及び効果を説明することができ、国が示す地域貢献の面においても説得力があるのではないかと。

学類別、他大学の状況等も含めて確認を行い、今後検証していきたい。

カリキュラムと卒業後の進路の相関性をエビデンスとして示すことができると考えられるため、IRとして高等教育専門教員と検証・分析していきたい。

大学全体として、授業評価がどれだけ役に立っているのか。評価の内容や方法が教育効果にどう表れているのか大学が本気で研究するテーマであり、極めて重要な課題である。総合的に、福島大学の教育はCOCも含め、うまく実施できているので、授業の実施内容と評価の関連が明らかになれば、さらにアピールができるのではないかと。

夏に実施した役員勉強会においても、大学教育の質保証の話題を取り上げた。授業評価の問題と共に質保証をどう担保していくのかが課題である。

授業評価で学生のアンケートを実施しているが、満足度という結果だけではなく、毎年テーマを変え細かい部分に焦点をあて、変化及び相関をみていきたい。

震災後3年ぐらいは混乱が生じていて、福島から離れなければいけないと子どもなりに考えていたと感じていたが、最近は主体的に福島の復興に役立ちたいという子どもたちが増え、また、福島大学に入る学生が増えていると思う。福島大学の地方創生と関連して、小学校高学年ぐらから福島大学への意識づくりなど、大学の今後のあり方について長い目でみた戦略と本質的なものを考えてみてはどうか。

双葉郡の教育復興に関わり、福島の子どもたちが将来地域の担い手になるための学びの手法を展開している。大学も地域と関わりながら子どもの発達段階に応じてトータルな人材育成をしていくことを示す必要がある。

国立大学のあり方として、社会貢献を大学の3つ目の柱ととらえるのではなく、教育・研究に社会貢献を取り込むことで、教育・研究が自ずと社会の役に立つことが重要である。

#### (7) 2017オープンキャンパスについて

真田副学長から、資料7に基づき、2017オープンキャンパスの実施状況について報告があり、資料受取者数について、今年度から資料配付方法を変更した

ため、過去との比較はできないが、ほぼ平年並みの来場者数であったとの説明があった。

( 8 ) 平成 2 9 年度監事監査計画について

上井監事から、資料 8 に基づき、平成 2 9 年度監事監査の基本方針、監査の方法、監査の重点事項及び実施項目内容について報告があった。